

北海道社会福祉学会ニュース

1月31日（土）研究大会での研究発表について（発表申し込み）

今年度の総会・研究大会は**2015年1月31日（土）の午前から午後と札幌で開催予定です**。プログラムの詳細は別途、ご案内いたしますが、研究発表の募集を行います。以下の内容をご確認のうえ、発表申し込みを行ってください。

①発表申し込み内容（12月31日締切）

1) 発表者氏名（会員）、所属、連絡先

（メールアドレス等）

2) 研究発表のタイトル

3) 要旨（200字程度）

② 発表について

1) 発表者は**12月31日まで**に下記メールアドレスに発表申し込みを行ってください。タイトルを「**発表申し込み**」と打って下さい。

申し込み先：ty71kori★sgu.ac.jp

★をアットマーク（@）に変えて打って下さい

2) 発表者はレジュメ作成の上、当日20部を印刷して持参し、会場で配布してください。

3) レジュメには以下の内容を含んでください。

研究目的・研究の視点および方法（倫理的配慮含む）・研究結果・考察

4) 発表は20分、質疑は10分です。発表会場には司会者がつきます。

5) 発表に際してパワー・ポイントおよび動画等の映写の準備はありません。

6) 発表者は**12月中旬頃**にレターでお知らせするプログラムを確認し、開催場所、発表時間、発表会場をご確認ください。

7) 発表に関してのお問い合わせは申し込み先にメールで行ってください。



第1回研究会（合評会）報告

今年度最初の研究活動として、研究著書の合評会を11月5日（水）の18：30～20：30に北星学園大学にて行いました。対象図書は、大友芳恵先生（北海道医療大学）による『低所得高齢者の生活と尊厳軽視の実態：死にゆきかたをえらべない人びと』（法律文化社、2013年）です。参加者は全員で16名でした。

最初に著者の大友先生より研究発表をして頂きました。丁寧なレジュメをもとに、なぜこのテーマに取り組むことになったのかというご自身の現場経験や、「階層性」や「尊厳」という論点からどのように研究されたのかという報告でした。量的調査と質的調査を組み合わせながらまとめられたもので、調査結果の内容もかなりのボリュームでした。

そのあと新田雅子先生（札幌学院大学）、伊藤新一郎先生（北星学園大学）から、それぞれの研究関心やお立場から多様なコメントがあり、そのコメントを広げるかたちで参加者とのディスカッションが行われました。

なかでも「尊厳」ということばにこだわった理由はどのあたりなのか、それをどうとらえていくのかという点について、いろいろな意見が出されました。例えば、尊厳をどう説明するかについて、QOLや「その人らしい生活」という言葉との関係はどのようなだろうかという問いが出されました。また、尊厳ということについて、それが「ある」状態を説明するというよりも、むしろ尊厳が「はく奪」された（「ない」）状態から説明されるものではないかという意見、あるいは尊厳という言葉は分解不可

能なのではないかといった意見は示唆的でした。「後は死ぬのを待つだけ」という調査対象者の言葉に、「本人がいいと言えればそれでいいのではない」という大友先生のご理解についてのディスカッションも行われました。また、タイトルにある「死にゆきかた」という言葉にも「尊厳軽視」という言葉と同様に、大きなインパクトがあり、動的・過程的に「死」にむかう「生」のプロセスを捉えておられることを確認しました。

2時間という限られた時間のなかでしたが、参加者からの意見も含めて多くのことを考えさせられる刺激的な著書の合評会でした。合評会の終わりには北星学園大学、北海道医療大学の大学院生からの感想もあり、報告者に研究へ心構えやアドバイスを求めるなごやかな場面もありました。今後もこのような合評会を開催していきたいと思えます。大友先生、新田先生、伊藤先生にこの場を借りてお礼申し上げます。

以下は、参加者のなかから、お二人の方に合評会の感想を寄せていただきましたので紹介します。

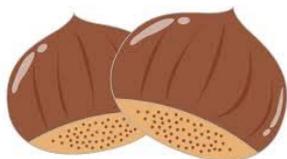
（文責：合評会担当 横山登志子）



●西村淳氏

(北海道大学公共政策大学院教授)

北大に9月に着任したので、北海道社会福祉学会の研究会には初めて参加した。大友氏からの報告に対し、お二人のコメント及び会場からの質問では、調査方法に関する質問のほかに、「尊厳」とは何かをめぐるコメントが多くなされた。調査方法に関しては、時間の制約のため細部にわたる議論はできなかったが、よりよい調査の方法に関する提案なども出され、大友氏の調査が今後一層展開しうる有意義なテーマであることが示されたと思う。また、大友氏の研究は決して理念的な研究ではなく、きわめて実証的なものであったにもかかわらず、「尊厳」をめぐる議論になったのは、「尊厳軽視」というワードにインパクトがあり、調査結果をまとめるのに適した、かつ論争的なものであったためだろう。私自身は社会保障法専攻で制度屋なので、家計調査における資産の取り扱いや、本調査の政策的含意との関係で「尊厳」を誰が「軽視」するという意味を込めているのか、といった点に関心があり、質問させていただいた。短い時間であったが、有意義で和気藹藹とした研究会で、参加した大学院生たちからも積極的に発言があった。北海道では福祉関係の研究者によるこうした研究会は多くないようなので、今後とも北海道社会福祉学会によるこうした研究会の企画があれば参加したいと思う。



●中田雅美氏

(九州大学大学院・学術協力研究員)

2014年度の第一回研究会『低所得高齢者の生活と尊厳軽視の実態：死にゆきかたをえらべない人びと』合評会に参加して

実は「合評会」というものに参加するのは初めての経験で、正直どのようなスタンスで参加すれば良いのか戸惑っていました。実際に参加してみて、大友先生のご高著の面白さもさることながら、博士論文をまとめていくまでの過程を含めてのご発表が、大学院生などにとって貴重な機会になったのではないかと感じました。私自身にとっても、今まさに博士論文の書籍化にむけて取り組んでいるということもあり、大友先生のご発表やコメントのおふたりのコメントを聞きながら、自分自身の研究に思いを巡らす良い機会となりました。そしてなぜ尊厳を軽視されなければならないのか。死にゆきかたをえらべないという現実を複眼的な視点で明らかにすること、時間をかけて積み重ねてこられた研究を貫き通す表題の設定、その背景にある問題意識を醸成することの重要性を改めて感じました。

私は北海道に来て数年になり、現在は地域福祉論やソーシャルワーク論などを非常勤講師として担当させていただいています。学会の研究会に参加することは、他大学の先生方と意見交換ができる機会であり、自己の世界に入り込みがちな研究を広い視点でみる貴重な機会と考えています。今回の合評会に参加することで、今後も引き続き積極的に研究発表できるようにしたいと感じました。

最後になりましたが、このように感想を寄せる機会をいただき、ありがとうございました。

機関誌「北海道社会福祉研究」への投稿について

機関誌『北海道社会福祉研究』への投稿を募集しています。従来毎年11月末を締め切りとしていますが、今年は投稿の呼びかけが遅くなってしまいましたので、締め切りを**2015年1月6日(火)必着**とします。

投稿規程、執筆要領をよく読んで投稿をお願いします。投稿規程、執筆要領については、学会ホームページにも掲示しています。

申し込み先は、北海道社会福祉学会事務局までお願いします。事務局の住所等は以下に記しています。



北海道社会福祉学会事務局 004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1

北星学園大学 藤原研究室気付 socialwelfarehokkaido@gmail.com